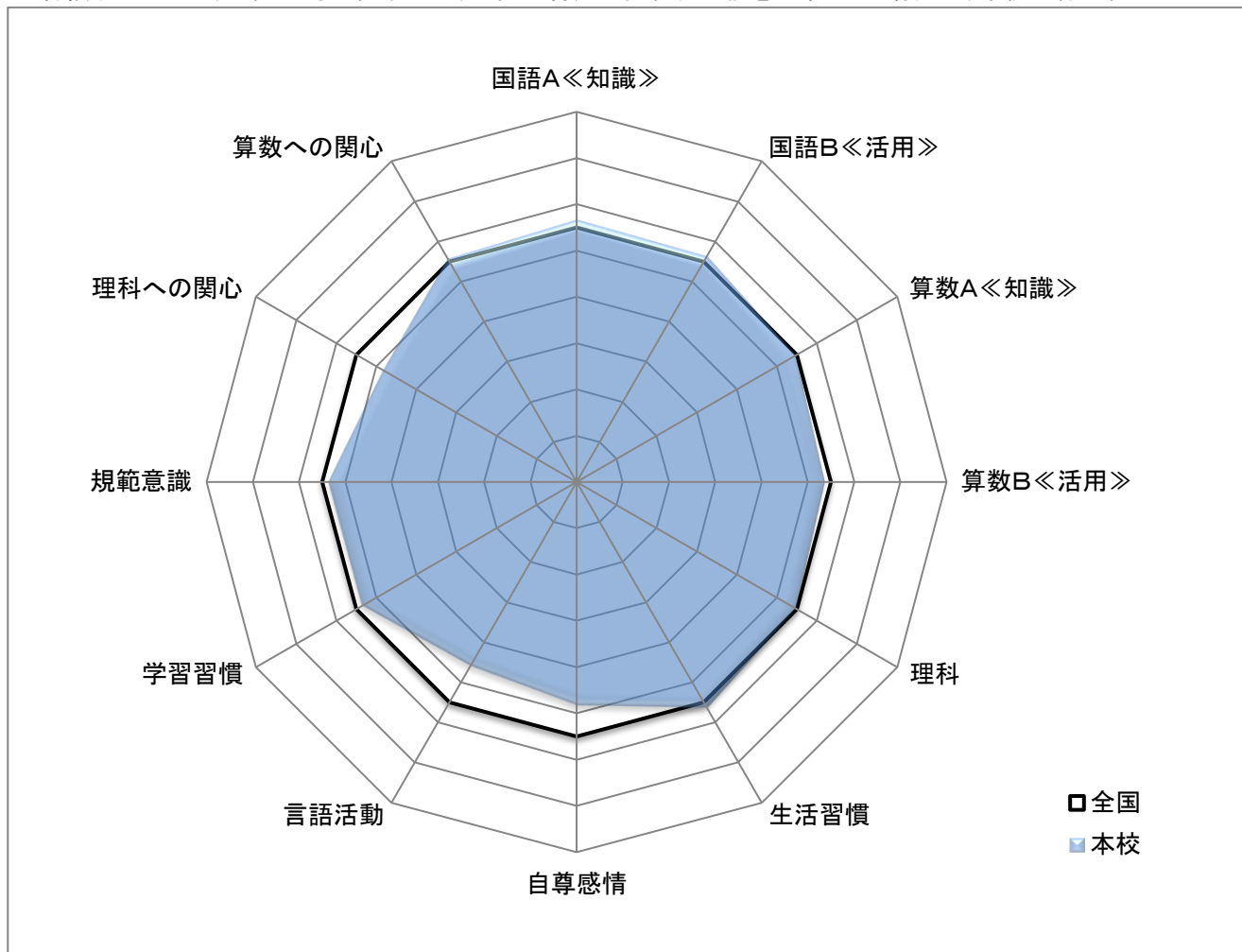


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語はA知識ならびにB活用において、若干ではあるが全国平均正答率（以下、平均）を上回った。算数は、A知識ならびにB活用において平均にやや達していない。理科は、平均と同じであった。算数への関心については8割以上の児童が肯定的な回答をしており、全国平均と同等であった。理科への関心においては、すべての質問において肯定的な回答の合計値が平均を下回る結果となった。また、言語活動に関する質問においても平均を下回っており、大きな課題である。

《授業改善のポイント》

国語は、校内研究で「対話」を取り入れた学習活動を探究した成果が表れている。今後も、国語だけでなく他の教科・領域等において友達との話し合いを通し、自分の考えを深めたり広げたりする学習活動を意図的・計画的に実施していく。算数は、少人数による習熟度別指導のさらなる充実を目指し、全国平均正答率を上回るよう、デジタル教科書や書画カメラを活用して分かる授業の日常化を図る。理科は、理科への関心を高めることが極めて重要である。そのため、科学的な言葉や概念を的確に捉えられるよう、実際の自然の事物や現象を適用して説明する。実験では、結果の見通しを伴った解決の方向性の構想や、実験結果を基にした分析ができるよう、既習事項や生活経験を基にした根拠のある予想を立てた実験を繰り返し行い、理科への関心を高めていく。

《チャートの特徴》

国語、算数、理科の3教科における正答率は、どの教科も全国平均正答率に近い値となっており、教科間での正答率の差は見られない。質問紙による肯定的回答合計値では、生活習慣、学習習慣、規範意識、算数への関心は全国平均とほとんど差がない。しかし、自尊感情、言語活動、理科への関心においては全国平均を下回った。自尊感情については、自分のよさを意識できている児童が約7割、将来の夢や目標をもっている児童も約7割で、平均から10ポイント程度低いいため、キャリア教育の見直しなどが必要である。言語活動は、課題解決に向けて、自ら考え自ら取り組むことに肯定的な回答をした児童が5割であった。主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を、今後も進めていかなければならない。

《家庭・地域への働きかけ》

江戸川区で実施している生活リズム点検・家庭学習週間を活用し、望ましい生活習慣や家庭学習習慣が身に付くよう働きかける。また、体験的な学習活動の充実を目指し、地域の専門家による授業を広く取り入れていくよう、地域の教育資源の掘り起こしに努める。